

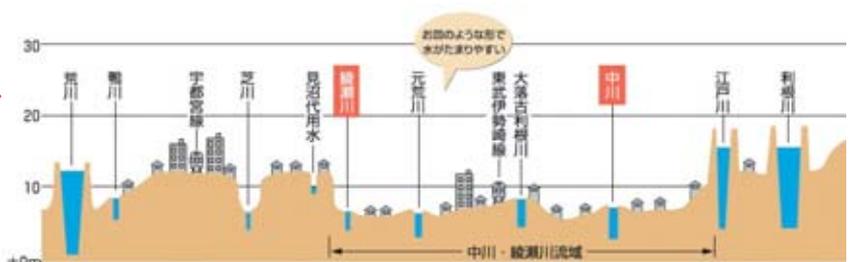
首都圏外郭放水路における治水事業効果

中川・綾瀬川流域は、荒川、利根川、江戸川といった大河川に囲まれたお皿のような低平な地域です。河川の勾配も非常に緩く、水が流れにくいといった特徴をもち、古くから大雨による浸水被害が頻発していました。

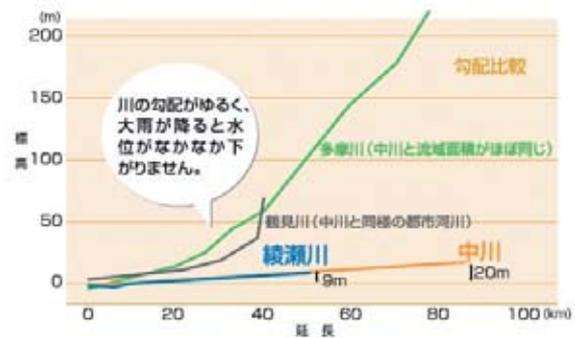
●中川・綾瀬川の流域図



●中川・綾瀬川の地形



●中川・綾瀬川の勾配図



トンネル内部状況写真

首都圏外郭放水路の整備は、中川、倉松川、大落古利根川の洪水の一部を江戸川に放流するために、各河川間を結ぶ地下河川を建設したものです。これにより、流域の浸水被害を解消・軽減し、より安全で良好な生活環境を創造するものです。

■施設概要

延長：6,300m
断面形状：内径10.6m
設置深度：地下50m

慢性的な浸水地域である中川流域の浸水被害を解消

- H3.3に埼玉県内82万戸の良好な住宅供給を目的とした大都市法に位置付け
- H4.4の大規模工事承認
- H5.1に都市計画決定され、H5.3から立坑本体に着手
- H14出水期に、江戸川から中川、倉松川を部分通水
- H18出水期に、大落古利根川まで完全通水（部分通水開始から32回の洪水調節）

全体イメージ



首都圏外郭放水路は、平成4年度に事業着手され、平成18年に完成しましたが、全ルートが完成する以前から一部通水を行い、その威力を発揮してきました。

平成16年10月の台風22号では(ここ数年で一番多い降水量199mm)約672万m³という東京ドーム5.4杯分もの洪水を地下に貯め、江戸川に排水しました。その結果、春日部市、杉戸町、幸手市などの浸水被害を大幅に軽減しました。



流入状況

放水路通水前

平成12年7月台風3号



埼玉県幸手市緑台2丁目地先

放水路通水後

平成16年10月台風22号



埼玉県幸手市緑台2丁目地先

首都圏外郭放水路によって、浸水被害を回避!!

